

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立小川小中学校
1 前年度 評価結果の概要	項目別三者比較によると、どの項目も、概ね肯定的な評価であった。しかし、取組自体が形骸化しないよう、今後も目標をしっかりと定め、目標に向かって絶えず取組を継続し、改善に努めていく。そして、学校全体としてさらなる向上を図っていきたい。
2 学校教育目標	自立・貢献 ～ 未来へはばたく子どもたち ～
3 本年度の重点目標	(1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力の育成 (2) 豊かな心や創造性の涵養 (3) 小中連携による基本的生活習慣の確立 (4) 家庭・地域と連携協働する学校づくりの推進

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎的・基本的な知識・技能の確実な 習得	○「唐津の学びスタイル」チェックシート の評価の平均が3以上	・「唐津の学びスタイル」チェックシートを活 用し、日々の授業改善に取り組む。 ・校内研修により授業研究会等を行い、取 組の促進を図る。						小山	
	○思考力、判断力、表現力の育成	○校内研究テーマに基づき、思考力、判 断力、表現力を高める授業の研究に取り 組んだ教師90%以上	・校内研究テーマに基づいて小中がそれぞ れに研究目標を立てて研究を進め、授業の 展開の研究やワークシート等の開発、個に 応じた指導に取り組む。						小林	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 観や正義感、感動する心など、豊かな心 を身に付ける教育活動	○道徳アンケートや人権・平和集会など のアンケートに、自分の思いや考えを書 けた児童生徒90%以上	・道徳や人権・平和集会に関するアン ケート、心の健康アンケートの実施 ・道徳科の授業づくりや評価に関する小 中部会等の実施						小林	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の 充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ の防止等のための取組、事案対処等) について組織的対応ができていると回 答した教師90%以上	・生徒の情報をすぐに職員で共有し、必要に 応じて対応を行う。 ・いじめ、生徒の情報交換・協議のについ ての研修・会議を年間に2回以上行う。						木原	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実 現に向けて意欲的に取り組もうとする ための教育活動。 ●離島の学校や近隣の学校との交流活 動計画し、親睦を深める。	●「先生はあなたのよいところを認めてく れていると思う」と回答した児童生徒8 0%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」に ついて肯定的な回答をした児童生徒8 0%以上 ○アンケートにより、近隣の島や学校の 良いところや課題について、90%以上 の児童生徒が記述することができる。	・島ならではの行事や、島の方々との交流活動 等を年間計画に組み入れ、負担軽減を考えなが ら計画的に行う。 ・地域と関連させた学習活動を通して、地域の課 題について知り、その解決策等を考えさせる。 ・交流のある島と同学年合同授業や、近隣の学 校とタブレット端末を活用したりリモート交流を行 う。						村岡	
	●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○自分に適した生活リズム(睡眠を含 む)を知り、快適な生活を送ることができ るような習慣を実行する児童生徒90% 以上 ○年齢に応じた睡眠時間を確保してい る児童生徒90%	・睡眠の大切さを知らせ、その「質」「量」を年間を通し て身に付けさせる。 ・基本的な生活習慣の一つとしての快適な排便の重要 性を知らせ、自らの健康を排便によって判断できるよう にする。 ・平日のゲームをする時間の実態調査。 ・保健だよりの発行(本校の健康課題を中心にした内 容)。						土井
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した 教員85%以上	・全職員向けに特別支援教育に関する 研修会を実施する。 ・生徒指導協議会等ですべての児童生 徒について共通理解を図る。 ・小学校低学年においてコグトレを活用 した実践に取り組む。						山本ミサ子	
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間 の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在 校等時間の上限を遵守する。 ○行事等の縮減 ○会議時間の設定	・小中連携による部活動・保護者との連携による 社会体育の実施・定時退勤日の設定・部活動休 業日の設定・行事等の統合や廃止・行事に含 めた校時表の設置(会議日には短縮校時等)。						西村	
	○長期休業中を中心に、年休の取得を 促進	○夏季休業中に、5日以上年休を取 得した教職員が80%以上 ・年間10日以上年休を取得した教職 員が90%以上	・日ごろから年休を取得しやすい職員室 の雰囲気を作る。 ・長期休業中は、年休を夏に5日、冬に 2日以上取得するように働きかける。						吉原	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○教育の質の向上に向け たICT利活用教育の実施	○効果的なICT利活用教育の推進 ○ZoomsやTeamsを活用した交流の推 進	・一人一台端末を、1週間に2～3回程度、利 用する。 ・ZoomやTeamsを活用した他校との交流授 業等を年間15回以上行う。	・職員のICT利活用による業務改善を行 う。 ・他の離島と連携し、ZoomやTeamsを活 用した授業やスピーチタイムを実施す る。						柳本	
○児童生徒のキャリア観の 育成	◎キャリア教育における汎用的能力で ある問題発見・解決能力及び表現力の 向上に努め、自らの意思をしっかりと伝 えられる児童生徒を育成する。	◎自ら設定した課題について、その考察 や意見等を分かりやすく、伝えることが できた児童生徒70%以上	・スピーチタイムやスピーチ交流会をは じめ、全ての教科、学校行事等を通して、夢 や目標について自ら考えさせたり発表さ せたりする時間や場面を設ける。						柳本	

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------